

教員採用試験等に係る贈収賄事件から1年を迎えて

6月14日で、教員採用試験等に係る贈収賄事件から1年が経過します。

この事件は、教育行政に対する県民の皆様の信頼を根底から失墜させるものであり、県教育委員会として改めて県民の皆様に心からお詫び申し上げます。

事件の原因・背景については、行政機関の権限と責任において徹底した事実関係の調査を行い、監督者を含め関係者の厳正な処分を行いました。また、教員採用試験における点数改ざん行為について、「正すべきは正す」という観点から、採用取消しを行うとともに、本来合格とすべきであった方については採用しました。採用取消しとなった方、自主退職をした皆さんの心中を察するに余りあるものがあり、本当につらい判断でありました。

今後、二度とこのような事態が生じないよう、まず、教員採用試験等の抜本的な見直しを行うとともに、教職員の人事管理の見直し、組織の見直しなどを行ってきました。

失われた信頼を一日も早く取り戻すためには、まず、「知・徳・体の調和のとれた心豊かな子どもたちを育成し、子どもたちが夢に挑戦し、自己実現を図っていくことをしっかり支える」という教育の原点に改めて立ち返ることが必要です。その上で、県教育委員会、市町村教育委員会、学校現場の教職員など、すべての教育関係者が一丸となって、教育の現場で着実に実績を積み重ね、保護者、県民の期待に応えていくことがなによりも重要です。

このため、私ども教育委員は、この4月以降、県内市町村の全教育委員と課題認識を共有し、真の連携を図るため、率直な意見交換を行ってきました。

今後、PTA 連合会・校長会との意見交換、さらに学校現場に赴き、現場の生の声を聴きながら、頑張っている教職員が正当に評価される人事評価制度や教職員の意識改革など教育行政の諸課題の解決に向け、改革を着実かつ迅速に進めてまいります。

教育行政への信頼を回復することは容易なことではありません。この事件を将来にわたって風化させることのないよう、私ども教育委員が先頭に立ち、不退転の決意で改革を断行しながら、学力・体力の向上など本県教育の再生に向けて全力で取り組んでいく所存であります。

平成 21 年 6 月 12 日
大分県教育委員会
委員長 麻生 益直